

## 別紙

### 長野県・軽井沢サミットの誘致を全面的に支援する決議

主要国首脳会議は、環境問題を含め、世界で直面する様々な課題を克服するため、加盟する8カ国が交代で議長国となり開催され、2016年には日本が議長国となり国内で開催される予定です。国内では、「東京サミット」に始まり、「九州・沖縄サミット」、「北海道洞爺湖サミット」と開催され、大都市から地方での開催に移行しているため、美しく豊かな自然環境を有する長野県は開催候補地としてふさわしいと考えられます。

中でも、軽井沢町は、昭和26年に「軽井沢国際親善文化観光都市建設法」が制定され、以前より国際親善と国際文化の交流を推進しているだけでなく、第18回オリンピック東京大会の馬術競技および第18回オリンピック長野冬季大会のカーリング競技の会場となり、夏・冬両方のオリンピック競技開催を通じて国際的役割を担っています。

地理的な条件につきましても、東京からの移動時間が1時間であり、北陸新幹線（長野経由）金沢延伸以後は12両編成による輸送力向上と、グランクラスによるサービスの提供が可能で、東京国際空港（羽田空港）からのヘリコプターによる輸送時間も約20分と好条件が整っております。

施設面については、町内にホテル等の受入施設が多数存在し、緑豊かで涼しい自然環境の中、各界経済人の会議やセミナーが数多く開催されている実績があり、外務省経済局の「G8サミット首脳会合開催地として必要な施設等の条件」を満たしていると考えられ、安全面についても、五輪開催や皇室関係のご静養時に培われた警護・保安体制が整いやすく、さらに平成26年3月の佐久医療センター開業に伴い、安全かつ質の高い高度医療の迅速な提供が可能になるなど、屈指の条件が整っているものと考えます。

以上の理由により、軽井沢町は、県内における主要国首脳会議の開催候補地として最適であると考えられるが、現在のアベノミクスでの経済状況に加え、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けて国全体の機運が高まりつつある中、県内においても、佐久総合運動公園の整備、浅麓自治体で進める高地トレーニング構想、新幹線金沢延伸に伴う長野駅前の大改修などが実施および計画されており、これらを連ねれば、結果的には軽井沢町だけでなく、佐久地域や東信、北信にも大きな波及効果が期待でき、それぞれの事業に弾みがつくものと考えられます。

すなわち、軽井沢でのサミット開催は、客観的に見ても、佐久地域を、進化する長野県を売り出す絶好のチャンスであると考えられます。

よって、佐久広域連合議会は、長野県・軽井沢サミットの誘致を全面的に支援します。

以上、決議する。